

ULT通信

あると

2018. 11. 7号 / vol. 82 発行 / ULT 図書館司書

11月は、毎年恒例ULT読書月間です。

特集展示や行事が盛りだくさん!

ULTに行けば色々な出会い&発見があります。

詳しくは今回のULT通信をチェック!!

二十日火コーラス部
ミニコンサート



みんなで聴きにきてください!

ULT百選
読書マラソン
座談会

日時: 11月22日(木)
15:20~16:20
場所: ULT

参加資格は『風が強く吹いている』を読むこと

※あらかじめ本を読んできてください
※本はULTで借りられます
※参加費は事前にお申し込みが入り参加費なし。

三浦しをん著『風が強く吹いている』を読んでトーク! 参加、お待ちしております!

二十二日木
読書マラソン座談会

ULT読書月間

十一月二日~三十日

二〇一八年 じしん 読書月間
十一月一日~三十日

特集展示
平成タイムトラベル

平成の時代を資料で振り返ります

特別展「平成の時代を資料で振り返ります」
・平成の時代を資料で振り返ります
・平成の時代を資料で振り返ります
・平成の時代を資料で振り返ります
・平成の時代を資料で振り返ります

平成を資料でふりかえります。教室のポスターをチェックしよう!

一階・特集展示
平成タイムトラベル



貸出点数無制限



何冊でも借り放題!

五階・写真部作品展



ULT10周年を記念し、「アニバーサリー」がテーマの作品+αを展示!

読書マラソン開始で
特典あり



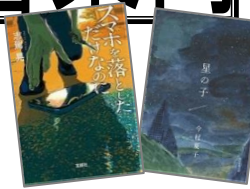
この機会に読書マラソンを始めてみませんか?

新着案内

10月の新着は約170点です。一部抜粋で紹介します。

↓読書の秋に、話題の小説・物語はいかが？

↓読書月間
特集展示
“平成タイムトラベル”の一部！



タイトル	著者	請求記号
星の子	今村夏子	913.6-イマ
君と夏が、鉄塔の上	賽助	913.6-サイ
スマホを落としただけなのに	志駕晃	913.6-シカ
ピブリア古書堂の事件手帖 扉子と不思議な客人たち	三上延	913.6-ミカ-8
あるかしら書店	ヨシタケシンスケ	E-ヨシ



タイトル	著者	請求記号
くまモンの秘密 地方公務員集団が起こしたサプライズ	熊本県庁チームくまモン	318.6-クマ
韓流経営LINE	NewsPicks取材班	007.3-ニュ
トランプ自伝 不動産王にビジネスを学ぶ	ドナルド・トランプ、トニー・シュウオーツ著	289.53-To
職業“振り込め詐欺”	NHKスペシャル「職業“詐欺”」取材班	368.6-エヌ
冥王星を殺したのは私です	マイク・ブラウン	445.9-Br
朽ちていった命 被曝治療83日間の記録	NHK「東海村臨界事故」取材班	493.19-エヌ
軌道 福知山線脱線事故JR西日本を変えた闘い	松本創	686.7-マツ
ゆとりの美学。力を抜くこと、サボることを恐れない	前田健太	783.7-マエ
時をかけるゆとり	朝井リョウ	914.6-アサ



歴史の本が充実！→



タイトル	著者	請求記号
中国古代史研究の最前線	佐藤信弥	222.01-サト
ヨーロッパがわかる：起源から統合への道のり	明石和康	230-アカ
イギリスの歴史：帝国の衝撃：イギリス中学校歴史教科書	ジェイミー・バイロンほか著	233-By
図説フランスの歴史 ふくろうの本	佐々木真	235-ササ
お茶の歴史（「食」の図書館）	ヘレン・サベリ	619.8-Sa
胡椒：暴虐の世界史	栗原泉 訳	619.9-Sh

コラムdeレ

第82回は高橋が担当です。テーマは「観てから読む本」。

私がこのパターンで出会って忘れられない作品が東野圭吾の『白夜行』です。



大阪のビルで起こった殺人事件。その事件の被害者の息子「桐原亮司」と被疑者の娘「西本雪穂」が物語の鍵を握ります。悲惨な事件によってつながった2人は、別々の道を歩んで行きます。しかし、2人の周囲で次々と巻き起こる不可解な事件。物語が進むにつれて、徐々に浮かび上がってくる真実とは…。読むたびにやるせなく、悲しい気持ちにさせられるミステリーです。

この作品は、山田孝之と綾瀬はるか主演で2006年にテレビドラマ化されました。たまたま第1話を見たがために、毎週欠かさず見る羽目になり、やがては、DVD-BOXまで入手。放送後に読んだ原作は、ドラマとは構成が大きく異なっています。ドラマでは、主人公の「亮司」と「雪穂」が顔を合わせているシーンが頻繁に出てきますが、原作では、2人が直接やりとりしている場面は一切描かれていません。物語の根幹である2人のつながりは完全に読者の想像に委ねられているんです。「こう来たか！」と思わず唸られました。

原作が改変されると、原作ファンとしては複雑な気持ちになることが多いです。出来次第では怒りを覚えることも（笑）。しかし、この作品に関しては、映像化によって原作で描かれていなかった登場人物達の感情の機微が表現され、視聴者が感情移入できるようになっています。その辺りをあえて省いている原作は、読み手の想像力だけで読ませるプロットの巧みさがあり、描かないからこそ最後まで不気味さが漂っていて、ミステリー小説としての面白さにつながっています。原作の構成は好き嫌いが別れそうですが、私はドラマを先に見ていたことで、登場人物達の心情を補完しながら読み進めることが出来ました。原作を先に読んでいたら、ここまで物語にのめり込むことはなかったかもしれません。そのくらい俳優陣の演技の印象が強かったんですね。久しぶりに見返したくなってきました。

さて、今回は「私が考えるドラマ化」にします。映像化されていない名作はまだまだあるはず！キャスト担当になったつもりでお願いします。